

7. 重点施策

重点施策については、施策一覧の中から以下の考えに基づき抽出し、概ね3年以内の実施を目標とします。

また、重点施策のうち、新しい手法による運行や見直しなど、対象エリアや費用面等で実施規模が大きい施策については社会実験を行い、採算性等を検証したうえで実施します。

重点施策抽出の考え方

(1) 問題改善の緊急性が高い施策

公共施設等が市中心部に集中しているものの、交通空白地域が多数存在し、特に高齢者の日常生活における有効な移動手段が確保されていません。また、下田地区の高校生の通学に関しては、同一市内でありながら、大きな地域格差（費用、時間等の負担）が生じています。

そこで、新たな交通手段による交通空白地域対策、地域間連携強化に関する施策を重点施策とします。

(2) 市民ニーズが高い施策

アンケート調査によると、通院・通学・買い物に便利なバスに対する市民ニーズが高くなっており、このようなニーズに優先的に対応していくことが重要と考えます。

そこで、通院・通学・買物が便利になる施策を重点施策とします。

バスに対する市民ニーズ上位3位
 第1位 通院に便利なバス（32%）
 第2位 通学に便利なバス（19%）
 第3位 買い物に便利なバス（17%）
 住民アンケート調査(H19年12月実施)より
 ()内はサンプルN=1552件に対する回答者数割合

(3) 公共交通サービスの維持・向上に資する施策

移動利便性の高い自動車への依存が高まっている中で、公共交通を維持・活性化していくには、市民一人ひとりが「問題意識を持って、自発的に公共交通を利用し維持する」という意識の醸成が必要不可欠と考えます

そこで、市民の意識啓発や住民が主体となった公共交通に関する取り組みの支援など、公共交通サービスを維持・向上に資する施策を重点施策とします。

(4) 短期間で実施可能な施策

短期間の準備により施策を実施し、サービスを提供することで、その効果を早期に市民が享受できることが施策実施において重要と考えています。

そこで、既存施設・路線の活用や実施中の施策との連携等により、短期間で実施可能な施策を重点施策とします。

公共交通活性化
 に向けた
 25の施策メニュー

抽出

12の重点施策

～地域間連携の強化～

施策 1-4

東三条～燕間路線バスの燕市吉田方面への連携強化

～広域との交流促進～

施策 2-3

高速バス利用のためのパークアンドライド用駐車場の整備

施策 2-4

観光客対応のデマンド型バス(または乗合タクシー)の運行
 観光企画チケットの導入

～公共交通の魅力向上～

施策 3-4

買物利便性の向上に向けた主要駅と市街地商店街および大規模小売店舗を結ぶバスの運行(商業施設からバス運営の補助)
 商業施設と連携した誘客チケットの導入

～車を運転できない人に対する利便性向上～

施策 4-3

高齢者用デマンド型バス(または乗合タクシー)の運行
 (目的地: 病院・公共施設・商業施設)

施策 4-4

地域内における学生用デマンド型バス(または乗合タクシー)の運行

施策 4-5

下田地区～市中心部間の通学専用バスの運行
 (高校生対応の朝・夕のみの定時・定路線型バス)

施策 4-6

循環バス「ぐるっとさん」の運行形態の見直し
 (ルート・運行時間帯の見直し、定期券の導入など)

～公共交通を支えるシステムづくり～

施策 5-1

公共交通に関するPR

施策 5-2

モビリティマネジメントの実施
 (総合学習・企業向け意識啓発・イベント実施など)

施策 5-3

公共交通を支える住民組織への支援

施策 5-4

地域住民が主体(運営・運行計画)となったコミュニティバスの運行

社会実験実施予定